

## 2023 年度事業報告

### 概要報告

コロナウイルスは、2022 年度末に季節性インフルエンザ等並みの感染症になり、2023 年度の骨髓バンク活動は、コロナ前にほぼ戻り、すべての患者さんの救命と QOL の向上を目指す活動やドナー登録活動を進めるとともに、患者負担金軽減を求める活動や、ドナー休暇制度導入の働きかけなどによりドナーが提供しやすい環境を整備するなど、より良い骨髓バンクと造血幹細胞移植医療を求める活動を進めてまいりました。

ドナーの新規登録者は、全国のボランティアの皆さんおよび関係各所との登録推進活動により 37,112 人（2022 年度 34,507 人）でした。一方、骨髓バンクの骨髓・末梢血幹細胞採取数は、1,092 件（2022 年度 1,055 件）でした。

2023 年度の大きな出来事としては、仲田順和会長が 2023 年 11 月 10 日（土）、遷化しました。会長は総本山醍醐寺座主（第 103 世）、大本山三宝院門跡、真言宗醍醐派管長、僧階は大僧正、尊称は猊下で、享年は 89 歳でした。本葬は 12 月 17 日（日）、醍醐寺金堂（国宝）で僧侶数十名による声明と読経の中で執り行われました。

また、骨髓・さい帯血バンク議員連盟の会長として、29 年間全国協議会をご支援くださいました野田聖子衆議院議員が、5 月 31 日（水）に開催された同連盟の総会で退任されました。これまでのご支援に心からのお礼を申し上げます。新会長には笹川博義衆議院議員が就任されました。これからのご指導をよろしくお願いいたします。

2024 年 1 月 2 日（火）、3 日（水）には、第 100 回を迎えた東京箱根間往復大学駅伝競走が開催され、4 年ぶりに関東地区の多くのボランティアが沿道で応援と普及啓発活動を行いました。

また 3 月 17 日（日）には、臨時総会を開催し、「特定資産の積立」について審議し、承認いただきました。

全国協議会は、骨髓バンクドナーのスワブ検査とオンライン登録導入を国と関係機関に要望してきましたが、2024 年 2 月に宮崎県で初めて 10 人がトライアルに参加しました。今後、早期に実現するよう注視してまいります。

# 事業別報告

## 1. 普及啓発事業

### (1) 普及啓発活動

#### 1) 主催・共催、協力、名義後援などの普及啓発

##### ① 主催事業 計1件

2023年度も3年連続で一堂に会してのボランティアの集いは行わず、東京新橋の会場を拠点としてハイブリッド形式で開催しました。メインのテーマとなった「対面」は、日本においてはまだ実現の環境が醸成されていません。一方でどうしてもドナーさんに感謝を伝えたいという患者さんの切なる希望をそのままにしておくこともできません。これからも患者さんが持つ、「感謝を伝えたい」という気持ちを具現化するために新しいアプローチを試み、進めてまいります。

開催期間		内容	参加人数	開催場所
2023年	5月27日	2023 全国ボランティアの集い in 東京	140人	新橋ビジネスフォーラムからWeb配信

##### ② 事業共催 計10件

2023年度は各地のボランティア団体と全国協議会の連携を強化する年でした。事業共催はその中心となるもので、地域それぞれの実情、ボランティア団体の活動内容に合わせて、全国協議会として協働して患者支援活動、骨髄バンク啓発事業展開に取り組みました。例えば経済的な理由、講師招聘などのネットワークの理由等によりなかなか実現しなかった活動が実現して、患者さん支援に弾みを付けました。

開催期間		事業名	開催場所	主催
2023年	6月10日	骨髄バンクチャリティコンサート「円覚寺ピアノ三重奏の夕べ」	神奈川県鎌倉市	神奈川骨髄移植を考える会
	9月17日	骨髄バンク支援「命をつなぐ」コンサート	鹿児島県鹿児島市	かごしま骨髄バンク推進連絡会議
	11月18日	骨髄バンクチャリティ「コンサートと落語会」	千葉県成田市	千葉骨髄バンク推進連絡会
	11月19日	みやざき骨髄バンク推進連絡会議設立20周年記念事業	宮崎県都城市	みやざき骨髄バンク推進連絡会議
	11月23日	ピアノ三重奏コンサート「2023 響」	東京都文京区	骨髄バンクを支援する東京の会
	12月26日	骨髄バンク支援「クリスマスコンサート2023」	兵庫県姫路市	姫路地区骨髄バンク推進センター

2024年	2月18日	骨髄バンク支援「命をつなぐ」コンサート	鹿児島県 鹿児島市	かごしま骨髄バンク推進連絡会議
	2月18日	つなげる命、つながる命 映画『みんな生きている ～二つ目の誕生日～』上映会	愛知県 名古屋市	あいち骨髄バンクを支援する会
	2月29日	倉岡陽都美・鎌倉亮太ジョイントリサ イタル「骨髄バンクチャリティー春待 ちコンサートシリーズ」	北海道 札幌市	北海道骨髄バンク推進協会
	3月16日	血液疾患医療講演会・個別相 談会	神奈川県 横浜市	神奈川骨髄移植を考える会

③ 共催名義 計1件

開催期間		事業名	開催場所	主催
2023年	12月3日	第28回県民公開講座「骨髄移植を知ろう」	青森県 弘前市	第28回県民公開講座骨髄移植を知ろう実行委員会

④ 協力事業 計2件

グリーンリボンは昨年の復活後、続けての協力事業となりました。近隣ボランティアの皆さんの協力を得て、啓発に取り組みました。

開催期間		事業名	開催場所	主催
2023年	10月8日	がんを正しく知り、がん対策を学ぶ 研修2023	東京都 江東区	認定NPO法人がんサポートコミ ュニティ
	10月9日	2023 グリーンリボンランニングフ ェスティバル	東京都 世田谷区	NPO法人日本移植者協議会 ほ か

⑤ 名義後援事業 計9件

SNOWBANKでは献血439名、ドナー登録79名という大きな成果が上がりました。主催団体代表者の荒井 DAZE 善正さん（元全国協議会理事）がHEROs AWARD2023という素晴らしい賞を受賞されたり、大阪や札幌など開催地区が広がったりするなど、社会的影響力がますます強まっています。

また、多くの映画ファンを魅了する尾道映画祭2024（2024年1月）では、全国協議会が名義後援するとともに、招待作品「いちばん逢いたいひと」の上映館である、しまなみ交流館で「いのちの輝き展」を開催し、来場者、映画出演者をはじめとする関係者の方々に観覧いただきました。

開催期間	事業名	開催場所	主催
2023年	4月16日	骨髄バンクチャリティ麻雀大会 2023 in 姫路	兵庫県 姫路市 姫路ビッグドラゴン
	7月9日	骨髄バンクチャリティ麻雀大会 in 仙台	宮城県 仙台市 骨髄バンクチャリティ麻雀大会実 行委員会
	8月27日	山本雅也バースデーライブ	東京都 豊島区 株式会社タフゴング
	10月26日	映画「みんな生きている～二つ目の 誕生日」上映会	東京都 品川区 東京カレーライオンズクラブ
	11月11日 ～11月12日	東京雪祭 SNOW BANK PAY IT FORWARD 2023	東京都 渋谷区 一般社団法人 SNOWBANK
	12月22日	山本雅也クリスマスディナーショー	東京都 港区 株式会社タフゴング
2024年	1月13日 ～1月14日	第7回尾道映画祭 2024	広島県 尾道市 NPO 法人プラットフォーム・おの みち 尾道映画祭実行委員会
	3月2日 ～3月10日	AYA week 2024	関連団体 イベント 一般社団法人 AYA がんの医療と支 援のあり方研究会
	3月23日	第46回日本造血・免疫細胞療法学会総 会 市民公開講座「がんと暮らす」	東京都 千代田区 第46回日本造血・免疫細胞療法学 会総会

#### ⑥ 展示会への協力

2022年度はコロナ禍の影響により中止、延期となっていたパネル展が徐々に再開し始めた年でしたが、2023年度は更にその勢いが増し、多くの展示会が開催されました。

患者とドナーの手紙のやりとりにより、骨髄バンク事業の一面を、また、患者さんの苦勞・ドナーさんの善意を広く社会に知っていただくために2004年より「患者とドナーのお手紙展」を全国で展開してまいりましたが、日本骨髄バンクより「ペアの特定につながる可能性があるので中止していただきたい」との強い要請がありました。「お手紙展」は多くの方の共感を得る機会であり、骨髄バンク事業啓発のためには非常に有効、有益な活動でしたが、スタート当時と比較すると個人情報扱いなど、社会情勢が大きく変わってきたことを考慮し、新しい形でのお手紙展を展開すべきとの判断に至りました。新しいお手紙展は2023年1月に全国協議会が後援した尾道映画祭から始まり、2024年の全国ボランティアの集いのテーマになるなど、回数を重ねるごとに進化しています。今後も骨髄バンク事業の啓発、患者さん支援のための重要なイベントと位置づけ、全国の仲間と一緒に社会に問いかけていきたいと思っております。

MAMOのメッセージ展 計6カ所（1997年6月から事業開始 累計開催数163回）

開催期間		開催場所		主催
2023年	6月10日 ～6月18日	宮城県 石巻市	イオンモール石巻	石巻骨髄バンクの会
	9月29日 ～11月30日	山形県 山形市	山形県生涯学習センター「遊学館」、山形県庁舎1階ロビー、県内銀行	山形県健康福祉部医療政策課
	12月18日 ～12月22日	大阪府 豊中市	豊中市役所 (あやちゃんの贈り物展同時開催)	NPO 法人つながるいのち
2024年	1月13日	広島県 尾道市	しまなみ交流館1階市民ギャラリー（あやちゃんの贈り物展、患者とドナーのメッセージ展同時開催）	全国骨髄バンク推進連絡協議会
	2月12日 ～3月17日	千葉県 銚子市	イオンモール銚子しおさいプラザ（わたしががんばったよ展同時開催）	千葉骨髄バンク推進連絡会
	3月3日	東京都 千代田区	リファレンス国際ビル貸会議室 (東京マラソンチャリティラウンジ) (あやちゃんの贈り物展、患者とドナーのメッセージ展同時開催)	全国骨髄バンク推進連絡協議会

いのちの輝き展 計11カ所（2006年6月から事業開始 累計開催数167回）

開催期間		開催場所		主催
2023年	7月24日 ～8月8日	千葉県 茂原市	茂原市立図書館（わたしががんばったよ展同時開催）	千葉骨髄バンク推進連絡会
	8月21日 ～9月4日	千葉県 長南町	長南町中央公民館（わたしががんばったよ展同時開催）	千葉骨髄バンク推進連絡会
	9月8日 ～10月4日	島根県 松江市	島根県立図書館2階	しまねまごころバンク
	9月12日 ～9月26日	千葉県 八街市	八街市立図書館ホール（わたしががんばったよ展同時開催）	千葉骨髄バンク推進連絡会
	10月11日以降は、「患者とドナーのお手紙」を除いた展示内容で実施			
	10月7日 ～10月31日	島根県 松江市	島根県赤十字血液センター 献血ルームだんだん	しまねまごころバンク

2023年	10月2日 ～10月16日	千葉県 船橋市	イオンモール船橋3階（わ たしががんばったよ展同時開 催）	千葉骨髄バンク推進連絡会
	10月17日 ～10月30日	千葉県 市原市	市原市役所1階ロビー（わ たしががんばったよ展同時開 催）	千葉骨髄バンク推進連絡会
	11月1日 ～11月28日	千葉県 睦沢町	「道の駅むつざわ」つどい の湯休憩室（わたしがんば ったよ展同時開催）	千葉骨髄バンク推進連絡会
	12月4日 ～12月19日	千葉県 大多喜町	大多喜町役場中庁舎ロビー （わたしががんばったよ展同 時開催）	千葉骨髄バンク推進連絡会
2024年	1月10日 ～1月26日	千葉県 千葉市	千葉市役所新庁舎1階 イベントブース	千葉骨髄バンク推進連絡会
	3月25日 ～4月23日	千葉県 山武市	山武市役所正面玄関ロビー	千葉骨髄バンク推進連絡会

あやちゃんの贈り物展 計5カ所（1994年7月から事業開始 累計開催数289回）

開催期間		開催場所		主催
2023年	10月17日 ～10月18日	北海道 札幌市	北海道庁本館1階ロビー特 設展示場	北海道骨髄バンク推進協会
	12月18日 ～12月22日	大阪府 豊中市	豊中市役所 （MAMOのメッセージ展同時開 催）	NPO法人つながるいのち
2024年	1月13日	広島県 尾道市	しまなみ交流館1階市民ギャ ラリー（MAMOのメッセージ 展、患者とドナーのメッセー ジ展同時開催）	全国骨髄バンク推進連絡協議会
	2月29日	北海道 札幌市	札幌コンサートホール Kitara	北海道骨髄バンク推進協会
	3月3日	東京都 千代田区	リファレンス国際ビル貸会 議室 （東京マラソンチャリティラウンジ） （MAMOのメッセージ展、患者 とドナーのメッセージ展同時 開催）	全国骨髄バンク推進連絡協議会

患者とドナーのお手紙展 計0カ所 (2004年9月から事業開始 累計開催数 59回)  
(準備を進めている中、日本骨髄バンクの要請により中止となりました)

開催期間		開催場所		主催
2023年	10月1日 ～10月12日 (中止)	宮崎県 宮崎市	イオンモール宮崎店	宮崎県福祉保健部健康増進課

患者とドナーのメッセージ展 (試行段階) 計2カ所

開催期間		開催場所		主催
2024年	1月13日	広島県 尾道市	しまなみ交流館1階市民ギャラリー (MAMOのメッセージ展、あやちゃんの贈り物展同時開催)	全国骨髄バンク推進連絡協議会
	3月3日	東京都 千代田区	リファレンス国際ビル貸会議室 (東京マラソンチャリティラウンジ) (MAMOのメッセージ展、あやちゃんの贈り物展同時開催)	全国骨髄バンク推進連絡協議会

わたしががんばったよ展 計7カ所 (2012年11月から事業開始 累計開催数 53回)

開催期間		開催場所		主催
2023年	7月24日 ～8月8日	千葉県 茂原市	茂原市立図書館 (いのちの輝き展同時開催)	千葉骨髄バンク推進連絡会
	8月21日 ～9月4日	千葉県 長南町	長南町中央公民館 (いのちの輝き展同時開催)	千葉骨髄バンク推進連絡会
	9月12日 ～9月26日	千葉県 八街市	八街市立図書館ホール (いのちの輝き展同時開催)	千葉骨髄バンク推進連絡会
	10月2日 ～10月16日	千葉県 船橋市	イオンモール船橋3階 (いのちの輝き展同時開催)	千葉骨髄バンク推進連絡会
	10月17日 ～10月30日	千葉県 市原市	市原市役所1階ロビー (いのちの輝き展同時開催)	千葉骨髄バンク推進連絡会
	11月1日 ～11月28日	千葉県 睦沢町	「道の駅むつざわ」つどいの湯休憩室 (いのちの輝き展同時開催)	千葉骨髄バンク推進連絡会
2024年	2月12日 ～3月17日	千葉県 銚子市	イオンモール銚子しおさいプラザ (MAMOのメッセージ展同時開催)	千葉骨髄バンク推進連絡会

## 2) 啓発グッズの作成・頒布

ハローキティの啓発グッズの新規アイテム（ポケットティッシュ、クリアファイル）が 2022 年度末に企画され、2023 年度は本格的に展開されました。まだコロナ禍前の頒布数には至りませんが、各地ボランティア団体、自治体からの引き合いが増え、2023 年度末にはそれぞれリピートオーダーしました。

### グッズの作成と活用

グッズ名	頒布先・頒布数	作成数・作成時期	
ハローキティポケットティッシュ	加盟団体へ 77,267個	100,000個	2023年 4月
	地方自治体など 27,900個	100,000個	2024年 3月
ハローキティクリアファイル	加盟団体へ 1,680枚	4,000枚	2023年 5月
	地方自治体など 500枚	4,000枚	2024年 3月
ハローキティ横断幕	加盟団体へ 1枚 地方自治体など 0枚	—	—
ハローキティのぼり	加盟団体へ 6枚 地方自治体など 0枚	—	—
ハローキティうちわ	加盟団体へ 468枚 地方自治体など 100枚	5,000枚	2019年 7月
今治のミニハンカチ（白）	加盟団体へ 228枚 地方自治体など 175枚	6,000枚	2019年 12月
今治のミニハンカチ （ターコイズブルー）	加盟団体へ 1,976枚 地方自治体など 295枚	6,156枚	2023年 3月

## (2) 東京マラソン 2024 の取り組み、箱根駅伝沿道応援復活

2024 年 3 月 3 日（日）に東京マラソン 2024 が開催されました。東京マラソンでは全国協議会に振り当てられたチャリティランナー枠 50 名を上回る多くの申し込みがあり、最終的には 54 名の新規チャリティランナーが参加して下さり、寄付金総額も 1,000 万円を超えました。6 割の方が海外からのランナーで、ご自身やご家族が元患者であったり、医療関係者の方がほとんどでした。コロナ禍で延期になった 2020 大会の出走権を持つ権利移行のランナーも参加され、今大会では全国協議会を応援して下さるチャリティランナーが 67 名も出走されました。

チャリティランナーに対するおもてなしも、千羽鶴企画やハンドブック企画

を実施する、パネル展の規模を拡大する、出走後のランナーの体のケアを理学療法士が行うなどの新しい試みを取り入れ、ランナーやランナーのご家族ご友人に大変好評でした。パネル展では絵やメッセージ、患者からの感謝のメッセージに添えられた説明文を読み、涙する方の姿も見受けられました。以降の支援につながるだけではなく、骨髄バンク事業の大切さを再認識していただく機会となりました。

EXPO（大会前の出走手続き）でのブース運営、沿道応援、ランナーの誘導・案内、ラウンジの運営には多くのボランティア、理事が参加され、皆様のご協力で大きな成功を収めました。

また、3年続けて沿道応援中止となっていた箱根駅伝における啓発活動ですが、今年は4年振りに復活しました。血液難病患者支援活動に取り組んでくださるプルデンシャル生命保険株式会社の社員、ご家族の皆様も参加していただき、久しぶりの活動となりました。プルデンシャル生命からは参加された社員、ご家族の人数（120名）に合わせてご寄付いただき、2月に贈呈式が行われました。席上、「来年はもっと多くの参加者を」という呼びかけがありました。プルデンシャル生命からのご寄付は全て佐藤きち子基金に充当されました。

### （3）情報発信

・機関紙の定期発行（計12回）

全国協議会ニュース 第368～379号 毎月3,600部発行×12回（毎月1日発行）行政、議員、関係機関、医療関係者、寄付者、各地団体などへ発送しました。

号数	発行月	主な記事内容
No.368	2023年4月	非血縁者間造血幹細胞移植 5万例到達 希望と愛の積み重ね
No.369	2023年5月	2023 全国骨髄バンクボランティアの集い in 東京のご案内
No.370	2023年6月	陽田顧問 福島県功労者知事表彰受賞
No.371	2023年7月	全国協議会 2023年度通常総会開催
No.372	2023年8月	梅田正造 新理事長挨拶
No.373	2023年9月	厚生労働省健康局難病対策課移植医療対策推進室長に野田博之氏就任
No.374	2023年10月	ドナー助成制度、国が制度化へ
No.375	2023年11月	骨髄・さい帯血バンク議員連盟 笹川博義新会長にインタビュー
No.376	2023年12月	「こうのとりのマリン基金」創設10年、仲田順和会長逝去

No.377	2024年1月	新年の挨拶（理事長、関係機関代表者）
No.378	2024年2月	議員連盟笹川会長 諸課題の解消への取り組み 4年ぶりに箱根駅伝で沿道応援、能登半島地震
No.379	2024年3月	あいちの会「第75回保健文化賞」受賞、自見大臣と懇談

・インスタグラムでの情報発信

2023年度から本格的にインスタグラムによる情報発信を継続して行っています。各地団体のイベントに関する情報を発信したり、東京マラソンのチャリティランナーに登場いただいたり、様々な情報を発信しています。少しずつフォローしてくださる方が増えてきました。これからも様々な情報をタイムリーに発信してまいります。

(4) その他

・学生の学習、研修対応

2023年11月22日 中野区立中野中学校 社会貢献の学習 6名

・寄付贈呈 計3回

開催期間		内 容	主催者・事業名等
2024年	2月8日	寄付贈呈（梅田正造理事長、大谷貴子副会長）	プルデンシャル生命保険株式会社
	2月10日	寄付贈呈（若木換副理事長）	ゴールドジム関東スクール発表会2024
	2月11日	寄付贈呈（浅野祐子副理事長）	ゴールドジム関西スクール発表会2024

## 2. 患者・ドナー支援事業

### (1) 患者・家族への支援活動

#### ①「白血病フリーダイヤル」による相談活動

「白血病フリーダイヤル」の、2023年度の開設回数は24回、受付相談件数は141件（前年度135件）でした。コロナ感染拡大防止の観点から第2、第4土曜日のみ開設しました。

白血病フリーダイヤル（患者・家族相談受付）（累計 1,294回、9,183件）

開設回数 24回（第2、第4土曜日）

受付相談件数 141件

相談員数 延べ71人（うち医師 延べ24人）

#### ②ハンドブック「白血病と言われたら」の頒布活動

「白血病と言われたら」改訂第6版の冊子については、患者・家族から多くの注文がありました。加盟団体が開催する患者相談会などでも患者さんに渡されました。また、東京マラソン2024チャリティの企画として、チャリティラン

ナーの応援コメントを付けて医療機関等に寄贈しました。一方、知りたい情報だけを手軽に入手できる無料ダウンロードも好調で多くの方に活用されました。同書を患者・家族に対する説明の際に活用する医療機関もあり、定期的に購入されています。

《出荷状況》

- ・ 有料頒布数  
上巻 72部 下巻 73部
- ・ 啓発用頒布数  
上巻 32部 下巻 32部
- ・ ダウンロード数  
1,434件（累計6,629件）

③移植患者への経済的支援「佐藤きち子記念造血細胞移植患者支援基金」

2023年度は需要が高まり、過去4年平均の1.42倍の助成額で申請件数も増加しました。2024年度は助成の範囲も広げる計画であるので、「佐藤きち子記念造血細胞移植患者支援基金（特定資産）」を積み立て財源確保を図りました。

2023年度の申請件数は23件（前年度21件）、助成件数は20件（前年度19件）でした。

佐藤きち子記念造血細胞移植患者支援基金

問い合わせ件数	79件
申請件数	23件
助成件数	20件
助成総額	4,417,643円

（累計 助成件数 362件、助成総額 96,323,465円）

④分子標的薬と精子保存への経済的支援「志村大輔基金」

2022年10月に新聞等に掲載をして周知を行った効果が続き、分子標的薬の新規助成申請の件数が増加、今まで申請の無かった医療機関からの申請も増えました。

志村大輔基金

問い合わせ件数	108件
（問い合わせ内訳 分子標的薬94件、精子保存14件）	
申請件数	分子標的薬133件、精子保存5件
助成件数	分子標的薬109件、精子保存5件
助成総額	分子標的薬5,478,000円、精子保存67,810円

(累計 分子標的薬 助成件数 720 件、助成総額 36,978,000 円、  
精子保存 助成件数 105 件、助成総額 3,704,458 円)

#### ⑤未受精卵子保存・生殖補助医療への経済的支援「このとりマリーン基金」

「このとりマリーン基金」は、2013 年 11 月に「東京マリーンロータリークラブ (現 東京港南マリーンロータリークラブ)」からいただいたご寄付を原資として設立され、2023 年に基金設立 10 周年を迎えました。この間白血病などの治療の過程で妊孕性を阻害される恐れのある女性の患者さんが、造血幹細胞移植など強い治療を行う前に未受精の卵子を採取・凍結保存することで、将来子どもを持つ夢を支援してきました。

2024 年 2 月から助成上限金額を 20 万円に改定し、基金の助成を受けて保存した方の生殖補助医療も助成対象としました。日本がん・生殖医療学会総会へのブース出展などで自治体からの支援を受けても不足分の申請は可能であること、ほとんどの自治体で対象外となる継続保存料の助成を行っていることをアピールしました。

#### このとりマリーン基金

問い合わせ件数 5 件

申請件数 卵子保存 1 件

助成件数 卵子保存 0 件

助成総額 卵子保存 0 円

(累計 卵子保存 助成件数 38 件、助成総額 6,388,094 円

体外受精 助成件数 2 件、助成総額 552,680 円)

## (2) ドナー支援活動

ドナー助成制度 37 都府県、1,029 市区町村

ドナー休暇制度 823 企業・団体

(2024 年 4 月 12 日現在 日本骨髄バンク調べ)

全国協議会の「ドナーサポートダイヤル」による相談件数は、減少傾向にあります。相談内容としては、HLA 検査の受け方、適合の確率、ドナー助成金、登録にあたって既往症の問い合わせ、適合通知が届いた家族からの心配事等です。

ドナーサポートダイヤル (ドナー相談受付)

受付相談件数 11 件 (うち電話受付 11 件)

(累計 電話受付 1,286 件、メール受付 242 件 合計 1,528 件)

## 3. より良い造血幹細胞バンクと医療制度の充実を求める事業

### (1) 要望・請願活動

全国協議会では例年、厚生労働省、骨髄・さい帯血バンク議員連盟、公益財団法人日本骨髄バンク、日本赤十字社に対して要望書を提出していますが、2023年度は要望書を提出するだけでなく、どのように各事項の実現性を高めるのかとの議論が理事会で交わされました。当初検討されていた2023年度の要望事項は以下の通りです。

- ① オンライン化、スワブ検査方法の導入早期化
- ② コーディネート期間短縮のため、コーディネートシステムの抜本的な再構築・DX化などの推進、ドナー助成制度の拡充
- ③ 移植患者の経済的負担軽減のための必要経費の見直し、HLA検査の保険点数化
- ④ ドナーの思いを伝える「患者とドナーの手紙」の回数・期間の再検討、患者とドナーの交流機会の新設

全国協議会として何度も要望を挙げてきた①ドナー登録のオンライン化、スワブ検査方法の導入については、日本骨髄バンクでもその導入に着手しました。その成果が患者さんの利益につながるように見守りたいと思います。

その他の事項については、当然重要なテーマであり、全国協議会としても取り組むべきテーマではありますが、骨髄バンクの運営主体である日本骨髄バンクには、その活動がどうすればより活性化するのか、といったシグナル、メッセージを送るのが全国協議会のあるべき姿であると議論され、ロードマップを含めたより具体的な提言を行っていくことになりました。

## (2) 調査・研究・セミナー事業、国際交流

### ① 日本造血・免疫細胞療法学会総会への参加

2024年3月21日（木）～23日（土）の3日間に東京国際フォーラム（千代田区）で開催された同学会で「30年以上変わらない骨髄バンクドナー登録活動の実態」のテーマ（担当：浅野祐子副理事長）でポスター発表を、「骨髄バンクを介した移植患者の経済的負担軽減のための提言」「骨髄バンクのコーディネート現状と課題」のテーマ（担当：山崎裕一理事）で口演を行いました。ポスター発表では、医療関係者にあまり知られていないドナー登録促進の実態を理解してもらうとともに、現状の課題の提起と解決策の提案、口演では移植ソースが多様化するなど環境の変化が著しい中、骨髄バンク事業の今後の在り方に関する提案を広く投げかけました。

### ② ブロックセミナーの開催

全国各地域での活動を促進するため、2023年度も地元団体（担当理事）

が主管団体としてブロックセミナーを開催しました。2023 年度は、全国協議会によるブロックセミナーの経費負担を増額しました。その結果、参加が増加し、活発な意見交換がなされました。

開催期間		シンポジウム・セミナー	主管・協力等団体
2023年	6月18日	近畿ブロックセミナー (6団体31人参加)	NPO 法人 関西骨髄バンク推進協会
2024年	3月9日	東海北陸地区ブロックセミナー (ハイブリッド開催、4団体20人参加)	静岡骨髄バンクを推進する会
	3月24日	関東甲信越地区ブロックセミナー (6団体21人参加)	(関東甲信越地区担当理事)

### ③ 国際協力

アジア太平洋地区新興国の若手医療従事者へ学会や研修のために、保有しているデルタ航空のマイレージを提供していますが、申請があったものの利用できる便が無かったため提供には至りませんでした。

### (3) 日本骨髄バンク、日本赤十字社との連携

2023年7月に就任した梅田正造理事長が日本骨髄バンク、日本赤十字社、厚生労働省移植医療対策推進室、骨髄・さい帯血バンク議員連盟関係者に就任の挨拶に赴き、今後も引き続き協力して骨髄バンク事業の推進を継続していくことを確認し合いました。

日本骨髄バンクとは更なる協力関係の構築、円滑な意見交換を行うことを確認し合い、3月18日には広報渉外部長並びに担当者3名が全国協議会事務所を来訪され、登録会の在り方について首都圏の代表者との話し合いの場を持ちました。今後も現場レベルでの率直な意見交換を継続してまいります。

#### ① 役員・委員の派遣

- 日本骨髄バンク評議員 (大谷貴子副会長、梅田正造理事長)
- 日本骨髄バンクアドバイザーリーボードメンバー (菅早苗参与)
- 日本赤十字社造血幹細胞事業検討委員 (梅田正造理事長)
- 厚生労働省造血幹細胞移植医療体制整備事業選定・評価会議委員 (梅田正造理事長)

② 日本骨髄バンク 評議員会への出席。理事会・業務執行会議等については、傍聴はかなわず資料取り寄せのみとなりました。

#### ③ 日本赤十字社 造血幹細胞事業広報作業部会への参加

- オブザーバー参加3回
- 一般の方、特に若年層へ造血幹細胞移植の理解を広めるための広報誌「BANK!BANK!」編集作業会議での助言を行い、また、加盟団体を通して配付した広報誌の使用状況や反応、評判について集約し意見を述べました。

- ④日本骨髄バンク 全国都道府県担当者会議の傍聴  
2023年8月3日(木)

## 4. 運動体の強化、財政改善の活動

### (1) 運動ネットワークの強化

- ・2023年度は梅田正造理事長からは次の2点の方針が示されました。
  - ①全国のボランティア団体との連携強化(加盟・未加盟を問わず)
  - ②日本骨髄バンクとの連携強化
- ・①については、梅田正造理事長が時間の許す限り各地の団体と意見交換し、事業共催制度を始めとした連携強化を模索していくことを確認しました(いしかわ骨髄バンク推進・はとの会、富山県骨髄バンクを広める会、関西骨髄バンク推進協会、福岡子どもホスピスプロジェクトを訪問。埼玉骨髄バンク推進連絡会35周年式典参加)。
- ・②については、前述の通り日本骨髄バンクと現場担当者レベルでの情報共有、意見交換の場を作り、登録会の開催方法について、また啓発活動、患者支援活動について協力し合い、患者さんのために効率的なパフォーマンスを発揮できるように日本骨髄バンクと継続的な協議を行うことで合意しました。このことにより、より患者さんに寄り添う体制が強化されます。

### (2) 全国協議会の組織強化・財政改善活動

- ・あいち骨髄バンクを支援する会が、第一生命第75回保健文化賞を受賞されました。
- ・2023年度は、全国協議会による事業共催制度が導入されて2年目に当たりますが、まだ周知が不足しており、この制度を活用したボランティア団体は10団体にとどまりました。この制度の活用により、骨髄バンク事業の啓発活動、患者支援活動が従来以上に活性化することが期待されます。ブロックセミナーでは全国協議会からの通達事項として、加盟、未加盟を問わず本制度の周知が図られました。
- ・ブロックセミナーについては参加者が増え、より活動の幅が広がることを期待し、全国協議会からの費用補助が従来の4万円から20万円に大幅に引き上げられました。
- ・2023年度の新規加盟団体は0団体、退会団体は2団体でした。退会理由は団体の解散によるもの、並びに会員の高齢化・会員数の減少による活動困難が理由でした。また、休会が1団体あり、これにより2023年度末における加盟団体数は31団体(うち休会中6団体)となっています。各地団体との連携強化の方針の下、2024年度は新規会員の増加を期待したいところです。
- ・2023年3月末に事務局職員が1名退職してから常勤職員2名体制が続いていた事務局に8月21日付で新規職員が入職しました。

- ・2023年度は、前年度までコロナ禍等の影響で停滞していた各種活動が徐々に復活し始めた年度でした。事業費に関しては2022年度は約3,300万円でしたが、2023年度は3,960万円と大幅に増加しました。その結果、経常増減額（収支差額）は2年振りにマイナスとなりましたが、活動が活性化されたことは大きな成果です。
- ・一方、全国協議会の認定NPO法人としての実績判定期間（2019年度～2023年度）においては、実績判定期間中の寄付総額と特定非営利活動に要した事業費のバランスが悪く、認定NPO法人の要件である『7割要件』を満たすことができず、2024年3月に開催された臨時総会の議決を経て、『特定資産』を積み立てる運びとなりました。「佐藤きち子記念造血細胞移植患者支援基金」については、コロナ禍や諸物価高騰の影響を受け、申請件数、助成件数とも急増しており、また、本来目的である患者支援を実現するため助成要件緩和の必要性も相まって、財源を確実に確保しなければならないことから2023年度臨時総会で、助成条件を緩和（収入上限の引き上げ）した上で「佐藤きち子記念造血細胞移植患者支援基金（特定資産）」を積み立て、白血病患者支援事業から1,200万円、佐藤きち子基金から500万円を繰り入れることが議決されました。

以上